

中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会
児童生徒の学習評価に関するワーキンググループ
(第4回) 意見等

筑紫女学園中学校・筑紫女学園高等学校
校長 松尾圭子
(前 福岡県教育庁理事)
平成30年5月30日



論点1

新学習指導要領に基づく3観点別学習状況の評価の目的がすべての学校に理解され、実践されることが大切である。実際の運用の手立てについても議論し、考慮した上で、学校現場に下ろすことが肝要である。



論点2

学習指導要領が改訂される今こそが、関係者全てが学習評価に対する正しい理解（認識）へとパラダイムを転換できる好機と捉えることができる。



論点3

学習評価の前提条件は、アクティブラーニングの視点による「主体的・対話的で深い学び」が実践されている授業である。

授業改善と3観点別学習状況の評価は一体となって進められるべきである。



論点4

学習評価それ自体が、「自己目的化」する状況を生み出さないような手立てが必要である。



論点5

授業改善、学習評価、生徒指導要録、調査書は、
一連・一体のものとして考えられるべきもの。

それによって、児童生徒一人ひとりの「学びの履歴」
というポートフォリオが完成する。



I 各論点について

◆ 論点1

(1) 現 状

- ① 現行の4観点別評価も、観点別に評価規準を定めて評価する、指導と評価の一体化を指導

しかし、学校現場の実際は・・・

- ・ 小学校：教科書準拠の業者テスト等を使用して評価
- ・ 中学校：各教師が作成したテスト問題を中心に評価
ただし、教師の個人差は大きい。
- ・ 高 校：授業やテスト問題においても4観点を意識した評価はあまり浸透していない。



I 各論点について

◆ 論点1

(1) 現 状

- ②大量採用に伴う若年教員や講師の増加は、(1)の状況をさらに悪化させている。

(2) 解決の方策

3観点別学習状況の
評価のあり方につい
ての説明を徹底

+

学校現場の現状を十
分に踏まえ、運用に
関する具体的指針
(マニュアル等)を
提示



I 各論点について

◆ 論点2

(1) 現 状

- ① 学習評価に対する教師、生徒、保護者等の関係者
全ての理解(認識)は固定化している。

※序列化、点数化のためのもの

- ② 教師、生徒、保護者等の関係者全てが、この機会を
捉え、学習評価の目的を正しく理解(認識)し、学習評
価に対する理解(認識)を根底から改める必要がある。

※生徒・保護者の認識を変えなければ評価に対する理解が得られな
い状況が生じる。



I 各論点について

◆ 論点2

(2) 解決の方策

【学 校】

成績表記の転換の検討

5段階の評点

→ ABC表記 等

+

【文部科学省】

学習評価に対する理解(認識)を根底から改める必要について

全国的ー大キャンペーンの展開

I 各論点について

◆ 論点3

【授業の「王道」】

- 発問の工夫
- 良質な資料提供
- テスト問題の改善 等

+

【アクティブラーニングの手法】

- 反転学習
- 協働学習
- グループ学習、ペアワーク 等

- 同一教科、同一科目担当者間での勉強会
- ICTの活用、プレゼンテーション、ディベート 等
- 授業関連の指導(ノートのとり方、授業の受け方、勉強の仕方 等)



I 各論点について

◆ 論点4

- (1) ルーブリックをより精緻にすること等が目的化しないように留意しなければならない。
- (2) ルーブリックを用いた評価は、学校現場の実態を考えた時、たとえば単元ごとに行うことが現実的である。



I 各論点について

◆ 論点5

- (1) 授業改善 → 学習評価 → 生徒指導要録 → 調査書
という順序で、一体的に整理されるべきもの。
- (2) (1)の結果、生徒指導要録は、児童生徒の「学びの履歴」というポートフォリオとなり、調査書は、生徒指導要録が反映された児童生徒の「学びの履歴」そのものであり進学、就職の際の正しい評価資料となる。



Ⅱ 提言

提言1

3観点別学習状況の評価が、学校現場において
実体的に行われるように、具体的な評価の仕方等
を示した運用指針(マニュアル等)の作成を検討



Ⅱ 提言

提言2

「学習評価」に対する教師、生徒、保護者等の
パラダイムを転換を図り、学習評価に対する正しい理解（認識）を図るための全国的キャンペーン等の展開を検討する。



Ⅱ 提言

提言3

授業改善、学習評価、生徒指導要録、調査書を一連・一体のものとして捉え、それを踏まえた3観点別学習状況の評価を推進する。



Ⅱ 提言

提言4

評価規準を設定し、それが授業改善→考査問題
作成→評価というPDCAサイクルを確立し、「学習評
価」の本来の目的と、高校における進級・卒業認定
のための評価の整合性を図る。

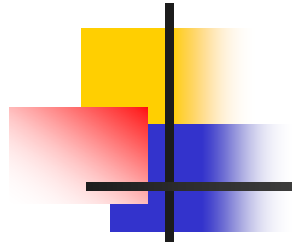


Ⅱ 提言

提言5

大学入学者選抜において、学力の3要素が評価されている調査書の内容を大学が十分に理解した上で、選抜が行われることを徹底すること。

学習評価について、大学と高校が共通理解をもって選抜を実施することで、高校での学びの質が更に高まる。



ご清聴

ありがとうございました。